

Rotary International District 2700 Fukuoka North Rotary Club

国際ロータリー第2700地区 福岡北ロータリークラブ

SPECIAL REPORT

週報別冊特別版



創設会員手記

「福岡北RCでの33年間、そして今クラブに思うこと」

小副川 浩二

福岡北ロータリークラブ 小副川 浩二

入会したけれど...

業界の先輩から「ロータリークラブに入会しませんか？」と突然のお誘いに戸惑いながら、業界の方にロータリークラブの内容を聞くと、ほとんどが「ロータリークラブの事は知りません」との答えの中に不安でいっぱいのまま入会しました。

最初の例会、三十六歳の自分が一番年下のグループ、そして異業種のトップの方ばかり、これは間違つて知らない世界に飛び込んだと後悔しきりの日々でした。例会の度にロータリーの何たるかを学びながら、いつ辞めさせていただくかを探る毎週でした。

ロータリアンの特典と責務

創立一年目は新会員のオリエンテーションが毎週ありました。内容は色々ですが、最初はロータリアンの特典として

- ① 友人が増える事
- ② 例会では多忙な人に会える事
- ③ 例会は「芋洗いの教育」切磋琢磨して大成していく

- 次に会員の三大責務として
- ① 例会の出席
- ② 会費の納入
- ③ ロータリー雑誌の購読

又、メーカーアップとは、例会を欠席した場合欠席の前後二週間の間に他クラブの例会に出席して欠席補填をする事等々...
ロータリーの何たるかをこれほど勉強するのが例会なのかと不思議に思っていました。

後で分かったのですが親クラブの城西クラブから、平野特別代表以下ロータリアン経験者が、チャーターメンバー五十名の中で六名しかいなかった事が分かり、新会員ばかりのロータリークラブで、ロータリーに關しての情報がほとんどないので理解できませんでした。

木を育てるより人を育てよう

創立時のクラブテーマの一つは平野特別代表の言葉にあります「木を育てるより人を育てよう」でした。この言葉は私の一番感銘を受けた言葉でした。この言葉に出会ってから三十四年間は、私のロータリアンとしての活動テーマになり、その後の活動は、この言葉に沿ったものになりました。



Kouji Osoegawa Profile	
生年月日	1947年2月10日
福岡北ロータリークラブ 入会年月日	1983年6月3日
座右の銘 (又は好きな言葉)	ONE FOR ALL. ALL FOR ONE (一人は皆の為に 皆は一人の為に)
尊敬する人 (又は人生の恩人)	都築 彦太郎 (理容師としての師匠)
趣味	ゴルフ・映画鑑賞
愛読書	海賊と呼ばれた男 (今の日本に必要な人材です)
思い出の映画	南極物語 (何度見ても犬に泣かされます)
思い出の音楽	ブルー・シャトウ(ジャッキー・吉川とブルー・コメツ) (都会的なサウンドとメンバーのカッコよさ)
思い出の場所 (出来ればその理由)	白馬岳 (初めての登山経験で、あまりの疲労で二度と登山は封印しました)
行きつけの店	ロイヤルホスト (孫の行きつけに付き合うようになって...)
好きな花	さくら (ソメイヨシノ)
日課としている事	早起き

ボーイスカウト福岡第十四団

チャーターナイト記念事業として、ボーイスカウトの団を設立することになりました。

クラブの創立翌年にボーイスカウト福岡第十四団が発団し、活動基地として西区小戸の平野特別代表所有の、土地と建物を提供していただき「かもめハウス」と命名されました。

団の活動がスタートして以来三十四年間は毎年援助金の支援により、今では福岡県でも有数の団に成長し、低学年の三十キロハイクや、六十キロハイクの夜食提供、ロータリアンもハイクにも参加して支援をしています。

読書感想文コンクール

創立二十周年記念事業として、歴史に刻まれた日本人の多くの善行の中から、国際貢献に関するもの、福岡にゆかりの深いものを選びめぐって、小冊子「子供たちへ」〔占部賢志氏執筆〕を刊行し、福岡市内の全小学校に無料配布しました。
翌年小冊子「子供たちへ」を読んだ小学六年生児童を対象に、感想文コンクールを行い、五年間優秀作品を表彰し、受賞作品は冊子にして会員に配布しました。

若楠基金活動

当クラブ創立時の平野特別代表がお亡くなりになった時、香典のお返しにと多額の寄付を頂きました。それを基にして社会に役立つ事として「若楠基金」が誕生しました。

それを子供病院やJICA倶楽部演奏会への援助をしましたが、しばらく活動が休眠しておりましたので、平成二十一年に青少年育成支援として、福岡市教育委員会と検討し、読書に熱心な福岡市立野間中学校に本を寄贈することになりました。

野間中学校では北ロータリー文庫として、毎朝十分間の読書の時間を利用して寄贈した本を活用してくれています。
この事業は三年間継続し二年目からはこの本を読んだ子供が例会にて読書の感想分を発表してくれました。

今クラブに思う事

三十四年間、北ロータリークラブしか知りませんが、創立時五十名でスタートして現在七十名を超えるクラブに成長しました。この期間に数知れない異業種の方々と、時間を共にして色々な人生観があることに触れる機会が増えて、自分の職業や人生に考え方の幅が広がったと感じ心から感謝しています。

北ロータリークラブに入会して私の人生は素晴らしく充実し、豊かになりました。

入会時にお聞きした「木を育てるより人を育てよう」の言葉が体の中に沁みこんでいます。残りの人生をこの活動に注いで生きたいと思えます。
クラブの皆さん、「芋洗いの教育」をありがとうございます。